

渡邊雅子先生へ お祝いの言葉

ガルバドラッハ・スウリ

(2022年3月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程修了)

まず、ここに集まりのご来賓の皆様、本日はお越しいただきありがとうございます。渡邊先生、35年間の研究の素晴らしい実績を持って名古屋大学をご退館されていること、心よりお祝い申し上げます。この場に立って、多くの優秀な指導生を代表して言葉を述べる機会をいただいたことに深く感謝申し上げます。

私は2016年に名古屋大学に研究生としてモンゴルからきました。時間の経つのは早く、今から10年前、初めて渡邊先生の大学院の「カリキュラム学研究」ゼミの授業に参加した日のことを昨日のように覚えています。まだ社会学について十分知らずに、渡邊先生の授業やゼミの中の討論の内容に引き込まれて、社会学に魅了されていきました。しかし、大きく抽象的に考えすぎがちのモンゴル人のクセもあり、なかなか研究テーマを設定できずいました。私の研究がどんな可能性がある研究になりうるのか、先生は誰よりも見出してくださり、いつも大きく勇気づけてくださりました。

実は、名古屋大学に来る前の私は自信がなく、不安定そのものでした。しかし、「あなたならここまでできる」と未熟な私を信じてくださった大きな心に私はいつも救われていました。「スウリさんはメニューのレポーターだね、羨ましい」、「あなたなら後期課程に十分いけるし、博士論文は楽しみだね」と言ってくくださった言葉があり、修士を終えて帰国する予定だった私は、本当に後期課程に進学し、研究を続けることができました。後期課程では、自分で文献を探すとといった基礎的な能力がついているべきだと、厳しくも責任を持たせてくれました。

また、毎週ゼミの授業、研究会をする中で、先生はいつも社会学やカリキュラム学、研究方法論の古典的な原典を選択し、私たちに読ませました。こうした原典を授業で扱うのに抵抗があると思いますが、そこまでのレベルを要求するのに値すると信じてくださったことがあってこそ、今私たちがここに立っているように思います。まさに「教育とは信じて待つことだ」ということを痛感します。

2025年9月から、モンゴルにある日本式教育を行う「新モンゴル小中高一貫学校」の第三校を開校し、校長という責任ある仕事を担っています。モンゴルの教育分野はまだまだであり、自慢できるようなことは何一つありませんが、自分の体験や勉強してきたことを活かし、子どもたちの教育、学校経営に精進しています。これからが本番です。理想と現実の差はあまりにも大きいですが、こうした学校を開校し、総責任者を務めようと決心をしたのも、私の中にある私を信じてくださった先生の存在、教えていただいた考え方があるからだ痛感しています。前期・後期課程での院生生活は人生で最も贅沢で、教育の本質を考えることができた時間だったと振り返ります。渡邊先生や院生仲間に出会えたこと

は、今後の人生の基本としてずっと私を支え、強固な礎になっていくことと思います。というのは、授業の中の小さなコメントや指示など物事に対する考え方のベースになる思考法を教えていただいた点は、指導生一同がいただいた渡邊先生の「隠れたカリキュラム」だったのではないかと思います。これまでの先生の研究成果はもちろん、研究に対する姿勢や献身性など、多くの模範を示してくださいました。さらに、物事や人々を動かすためにそれらを大きな枠組みや多元的に捉えることは最も大切な資質でありますし、院生生活で培ったそのような姿勢や考え方が今後の指針になっていくと感じてやみません。

教育はどんな人にも無限の可能性を与えられるというメリトクラシー論が否定されていますが、渡邊先生が指導生一人一人の中の可能性を大きく広げてくださったことは確かです。渡邊先生から、知識はもちろんですが、物事へ価値づけのレンズ、考え方という大きな財産をいただいたように思います。これからは、渡邊先生が私にしてくださったように、いくつもの通りの可能性を想像し、多元的に見とれる教育リーダーになりたいと思っていますし、多くの教員や生徒の世界観を否定せずに信頼を寄せ、大きな愛で育てていけるよう全力を尽くしていきたいと考えています。

「博士号は運転免許と同じである」と先生はよくおっしゃいましたが、私はまだペーパードライバーです。学校というフィールドを持って、モンゴルの学校や教育について自分なりに日本や他国との比較研究をし、学問として追求し、将来的には渡邊先生のように、一つの興味深い知見をモンゴルの社会に残すことを展望にします。これは、渡邊先生や多くの恩をいただいた方々に対する一つの恩返しであり、社会に対する使命でもあると考えています。先生の一弟子となれたことを心より誇りに思っています。

先生は、今後とも興味深いご研究実績を多く積んでいかれることと思いますし、指導生として楽しみに見上げていきます。まさに本物の原石のようにますます輝いて欲しいです。我々指導生はそれぞれの想いでそれぞれの人生をあゆむ際に、先生の背中を見て、自分なりの将来へ進んで行きます。成功や成果には多様なあり方があり、答えのない不確かな現代社会を常に問いつつ、当たり前を疑い、社会学というレンズを糧に自分なりに可能性を探りながら精一杯生きていくと思います。

渡邊先生の今後のさらなるご研究成果とご健康をご祈念し、指導生代表の言葉とさせていただきます。

2026年2月20日
新モンゴル第三小中高一貫校 校長
ガルバドラッハ・スウリ